

科目名	ジャーナリズムの役割特論	担当教員	佐々木 伸
科目属性	専門科目群E	単位数	2単位(面接0.5単位)

【授業概要】

インターネット全盛の中、「ポスト・トゥルース」時代といわれるようにフェイクニュース（虚報）が氾濫し、何が真実で、何がうそなのか、何が実際に起きているのか、起きていないのか。世の中の不確実性と不透明感は深まるばかりである。

こうした時代にあっては、「真実・独立・公正」の3原則を掲げるジャーナリズムの役割とその責任は一段と高まっていると言えるだろう。ジャーナリズムが社会の羅針盤となり、ゲートキーパー（門番）の役割を果たさなければ、課せられた機能の1つである権力の監視もままならなくなる。結果として社会や国民が多大な不利益を被ることになりかねない。今こそ、ジャーナリズムとその精神を具現化するメディアの存在そのものが問われていると言っても過言ではない。

本講では、政治、社会、経済、国際、スポーツ、文化、科学などあらゆる分野での日々の出来事を分析、検証しつつ、ジャーナリズムの果たすべき役割と責任がどのようなものなのかを探求する。ジャーナリズム・メディアが共生社会を形成する上で、どのような手助けができるのか、またしなければならないのかについても考察する。

【授業の到達目標】

- 1、不確実性漂う今の時代を的確に分析、理解し、ジャーナリズム・メディアの果たすべき役割と責任、その針路を考察する。
- 2、ジャーナリズムの権力監視の役割を具体的な事例を研究しつつ考察する。
- 3、実名報道と情報源の明示がなぜ重要なのかを把握、報道の諸原則を理解する。
- 4、取材・報道する際の人権とメディアスクラムなど諸問題について研究する。
- 5、SNS全盛にあつてフェイクニュースの生まれた背景やSNSの問題点と今後の針路などについて考察する。

【授業計画】

授業計画としては以下の15回におよぶ内容となるが、教科書「ジャーナリズムの倫理と規範」、「レジュメ」に基づいて学習し、その総括的なスクーリングを行い、突っ込んだ討議を行う。その後、2週間以内に4000字程度のレポートを提出し、その評価を踏まえて、最後に科目習得試験を受けてもらう。

その上で、下記のような割合で総合評価を下すという形にしたい。

第1回：ポスト・トゥルースの時代—不確実性と分断の時代

第2回：ジャーナリズムの基本的役割と社会的責任—真実・独立・公正の3原則

第3回：報道と権力—ファクトチェックの重要性

第4回：表現と報道の自由

第5回：客観報道主義

第6回：実名報道と匿名報道

第7回：情報源とその秘匿

第8回：人権とメディアスクラム

第9回：誤報とねつ造

第10回：政治、社会、経済、国際、スポーツ、文化・科学、社説など各分野の報道

第11回：同上（記事のスタイル）

第12回：写真・映像報道—1枚の写真が世界を動かす

第13回：戦争・紛争報道—危険地取材は必要か

第14回：SNSとフェイクニュース

第15回：新聞は消滅するのか

【評価方法】

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

【教科書】

「ジャーナリズムの倫理と規範」（新聞通信調査会）

「レジュメ・ジャーナリズムの役割特論」（佐々木伸）

「実践ジャーナリズム養成講座」（花田達朗編著 平凡社）

【参考図書】

「メディアと政治」

「権力とジャーナリズム」